

(44) 天才・偉大な人間（「或る反時代的人間の偵察行」の44）

「偉大な人間」は「偉大な時代」と同じく、そのうちに「巨大な力」が蓄積されている「爆発物(Explosiv-Stoffe)」である。彼らに向けて、集められ、積み重ねられ、蓄えられ、保存されたものが、長い間爆発を起こしていないということが、その歴史的・生理的前提である。その緊張が余りに大きくなると、「偶然の刺激」でも「天才」や「行為」や「大きな運命」がこの世に突然呼び出されことになる。その場合には「環境」や「時代」や「時代精神」や「世論」は問題とはならない。

ナポレオンは別格で、より強靱で長く古い文明の「相続者」であり、「支配者」であった。彼のような「偉大な人間」は必然であるが、彼らが現れる「時代」は偶然である。「天才と彼の時代」との間にある関係は、「強さと弱さ」、「老いと若さ」との間の関係である。対比すると、「時代」の方がいつもはるかに「若く、軽薄で、未熟で、不確かで、幼稚」である。また、「偉大な人間や時代」のうちにある「危険」は尋常ではない。あらゆる種類の「消耗」や「不毛」がぴったり後についてくる。そもそも「天才」は必然的に「浪費家(ein Verschwender)」であり、「自分を出し尽くす(sich ausgeben)」ことが彼の「偉大さ」である。そこでは「自己保存の本能」は取り外され、彼は「流れ出る、溢れ出る、自分を浪費し、自分を大事にしない」。それはあたかも川の流れが岸を越えて氾濫するのと同じである。

(45) 犯罪者とは（「或る反時代的人間の偵察行」の45）

「犯罪者の典型」とは「恵まれない条件のもとにある強い人間の典型」、「病気にされた強い人間(ein krank gemachter starker Mensch)」である。彼には「野生(die Wildniss)」、すなわち、ある種の「より自由で、より危険な本性と生存形式」が欠けている。彼のもっている「徳」は社会から追放され、その「もっとも生き生きとした衝動」は直ちに「抑圧する感情」、「疑念」や「恐れ」、「恥辱」によって覆われる。これは「生理学的退化(physiologische Entartung)」への処方である。すなわち、「飼い馴らされた平凡な去勢された社会」では「野生の人間」が必然的に「犯罪者」へと「退化する(entarten)」のである。

ナポレオンがその最も有名な事例である。この問題にとってドストエフスキーの証言が重要である。彼はスタンダールの発見よりも私の生涯の最も美しい幸運に属する。彼は社会復帰への道を絶たれたシベリアの囚人たちに、ロシアの大地に育つ最も良質で最も堅く最も貴重な木材から彫り出されたものを感じ取った。そもそも「犯罪者」とは公的な同意が得られず、有益とも有用とも感じ取られていない人間である。その感情は自分を排除され、下品で不潔な者とみなす「チャンダラの感情」である。これまでは聖職者が最上位の典型とされ、他の価値ある人間は無価値とされてきた。しかし、聖職者が最下位の人間で、チャンダラであり、最も嘘つきで最も下劣な人間とされる時代が到来する。